

第五の文明

埼玉県立歴史と民俗の博物館 資料調査・活用担当 学芸主幹 栗島 義明

世界史で最初に学ぶ項目が世界四大文明だった。しかしここ数十年來の調査成果、とりわけ新大陸での考古学的研究によって第五の文明の存在が明らかとなりつつある。詳細は省くが幾つかの注目点について触れ、所謂マヤ、先インカ文明の驚くべき高度な文化内容について簡単に紹介してみたい。

まず、新大陸のこれらの文明は旧大陸の諸文明とは全くの接点がなかった点で注目を引く。驚くべきことは先マヤ(オルメカ)でも先インカ(カラル、コトシュ)でも紀元前3000~2000年には大規模な神殿設営が開始され、都市国家ともいべき社会が出現している点である。これは黄河、メソポタミア、エジプトなどほぼ同時期と考えてもよい。加えて新大陸の文明でも地域独自の栽培植物が人々の生活を支えており、代表的な栽培植物としてカボチャ、トウモロコシ、豆、トマト、綿、トウガラシ、ジャガイモ、ヒョウタン等々がある。嘗て人類学者のレヴィストロースは、新大陸文明の世界的貢献(人類の発展を支え戦時の食料危機を救う)を高く評価していたことが思い出される。

農業を取り巻く技術も高度であり、例えば先インカ時代より砂漠地帯ではくまなく地下用水路が張り巡らせて食料生産がなされていたが、これは中東や中国西域のカナートと同一の機能・技術を駆使したものであった。水路と言えばマヤ文明でも乾季に備えた水管理システムを完備した都市(パレンケ遺跡)が存在する。旧大陸が水(大河)の治水を軸に発展したのに対し、新大陸では水の確保・補給を軸に社会・経済が展開している点で大きな違いがあるように感じる。

高度な文化を誇った新大陸の古代文明であるが、四大文明とは決定的な相違点がある。それは金属器を持たなかったこと、関連して武器類の発達も殆ど認められないことである。しかし、それは殺戮や戦争がなかったことを意味するのではなく、新大陸にも戦争があり奴隷も多数存在した。アステカ文明では生贄として毎日奴隷を神に捧げる為、その確保を目的として他都市に戦争をしかけることも多かったという。生贄を捧げる専用の神殿と台座、そして解体具(石器)が多数用意されていた。

マヤの絵文字は現在、ほぼその解読が完了しているが、文字を持たなかったインカでは糸(キープ)を文字替わりに使用しており、その解読は全くなされていない。しかし、この糸で帝国内の人口や穀物生産量など細かな情報をやり取りしていたことは明らかで驚嘆に値する。マヤ人の暦に関する知識は膨大で、彼らは1年が365日、4年に1回の閏年があることも既に熟知していた。

四大文明について触れる機会は多いが、新大陸の文明について知る機会は少ない。メキシコやペルーを訪れるには、旅費だけでなく思いのほか体力と気力を要することとなる。せめてトウモロコシやジャガイモを食べ、カカオチョコを摘まみ、或いはテキーラを飲みつつ(さすがにコカは論外!),これらの文明に思いを馳せるのも悪くはないかも。両文明に関しては日本人研究者による優れた入門書が多数あるので、この駄文で少しでも興味を抱かれた方がいたならば是非一読をお勧めします。



チェチェンイツァー 毎年水神の降臨する神殿

今後のイベントスケジュール * 申込は『JUNO』に応募要項が掲載されてからお願いします。

ホームページ: <http://junosaitama.net/> ブログ: <http://hakutomobulog.at.webry.info/>

- 9月20日 (水) 友の会見学会『上総国分寺関係』 <前号で紹介>
- 9月22日 (金) まち歩き研究会「朝霞」(再企画 日時に注意) <前号で紹介>
- 9月30日 (土) 古道探索倶楽部「赤山街道・越谷道をたどるシリーズ 2」 <前号で紹介>
- 10月26日 (木) 友の会見学会『浅間縄文ミュージアムと自然史博物館』 <今号で紹介>
- 11月5日 (日) お祭りクラブ「時代まつり」(埼玉県嵐山町) <今号で紹介>
- 11月8日 (水) プレミアム講座 特別展「上杉家の名刀と三十五腰」関連 <次号で紹介>

友の会見学会『浅間山天明噴火の遺跡巡り』を開催

2017/08/27に44名が参加

天明3年の浅間山大噴火では、埼玉県北部の利根川流域にも多くの人馬が流れてきた。今回の見学会では、押し流されてきた何百という遺体を葬り、供養した伊勢崎市戸谷塚の観音堂を訪れ、地元郷土史家の飯島氏に、利根川がどのように泥流で埋まり、川の流れが変わっていったかを、利根川の堤防の上で解説していただいた。(右の写真)。そして犠牲者の鎮魂のために建立された成身院の百体観音堂(さざえ堂)を見学した。



午後からは、延喜式神名帳・名神大社である金鑽神社を見学した。時間の都合上、山をご神体とする本殿や重要文化財である多宝塔の見学グループと断層のすべり面である鏡岩見学のグループとに分れ見学した。山の中腹にある鏡岩見学には、岩井会長をはじめ十数名の参加があり、日ごろの皆さんの鍛錬ぶりに驚かされた。

次に、今城青坂稲実池上神社へと向かい、村社ほどの小さな神社であるが、式内社に列せられ、中央との結びつきが強かった当時の神流川流域の豊かさを想起させる田園風景を見学した。

(斉藤文孝 記)

クラブ活動 今後の予定 (参加者募集)

◆嵐山時代まつり(埼玉県嵐山町)◆

11月5日(日) 友の会「日本の祭り研究クラブ」第23回見学会のお知らせ(参加自由)

《名称》嵐山時代まつり(埼玉県嵐山町)

《期日》11月5日(日) 10時00分～16時00分:雨天決行

《集合》東武東上線「武蔵嵐山駅」改札出口 午前10時00分

《費用》交通費(電車等)、保険代他100円

《持物等》歩き易い靴並びに飲物・カメラ・傘等(昼食はまつり会場を予定)

・「嵐山町」では、木曾義仲や畠山重忠といった武将や城跡、合戦など中世の歴史にちなんだイベントを毎年11月に行っています。古式に乗っ取った出陣式にはじまり、川越市の「獅子の会」による火縄銃の実演や武者行列などがあり、町民が参加され、歴史の重みを感じさせる華やかな時代絵巻といった雰囲気を持ちます。13時から菅谷館跡で披露される流鏝馬(やぶさめ)は、身近で見学できます。又、時間の余裕範囲内で武蔵大蔵合戦等の歴史にも触れる予定です。

《申込み》下記の連絡先までお願い致します。

《連絡先》元木孝 TEL: 0493-54-0401 (携帯090-2259-1673) Eメール(qqqt9x8a9@cyber.ocn.ne.jp)

★ 次回予定: 12月1日(金)「玉敷神社神楽」見学と騎西城跡を訪ねる(加須市)

寄稿 **三郷の万葉歌碑雑感**

会員 宇治郷 毅 (さいたま市)

趣味で万葉集を学んでいる。特に東歌・防人歌に関心がある。奈良時代、現在の埼玉県は、「武蔵国」、「下総国」の一部であったが、この地の東歌・防人歌には秀作が多い。その中の一首に「葛飾早稲(米)」を詠った有名な歌がある。巻第十四の「鳩鳥の 葛飾早稲を饗すとも その愛しきを 外に立てめやも」(鳩鳥が^{にほどり}かかずく葛飾の早稲を神にささげる時とて、どうして、あの愛する男を外に立たせたままにできようか) (中西進『万葉集 全訳注 原文付』による) というもの。

この歌碑が現在、江戸川兩岸の埼玉県の三郷市と千葉県野田市と流山市にある。これらの市は古代下総国の「葛飾郡」に属し、当時より「葛飾早稲」は有名であったようで、その産地であることを誇りとして戦後建てたものだ。しかし三郷のものは特異である。というのは同じものが同じ場所に二つ建てられているからだ。それは三郷市早稲田八丁目の丹後の「稻荷神社」境内にある。一つは、境内入り口の島居横にあり、昭和37年(1962)2月に当時の三郷村によって建てられた「万葉遺跡葛飾早稲発祥地」(昭和36年9月1日埼玉県指定旧跡)碑である。いま一つは、本殿前右横に、平成24年(2012)11月に建てられた「万葉遺跡葛飾早稲産地」碑である。「発祥地」が「産地」と変わっているが、歌碑を兼ねた葛飾早稲産地の標識柱である。この新碑は、市内の「篠田石材工業」の篠田雅央現社長が発起し、自ら製作、神社に寄贈したものだ。その理由は、旧碑の文字が老朽化して読みにくくなったことと、旧碑を刻んだのも現社長の祖父であったからだ。私は、その郷土愛と篤志に敬意を表したい。

「葛飾早稲」歌は民謡として、当時の葛飾地方では民衆の間で広く詠われていたのであろう。この歌は中西進訳にあるように、初穂を神に供え収穫に感謝する「新嘗祭(初穂祭)」には女は潔斎して、男を遠ざけ、神を迎えるという厳しい信仰上のタブーと、にもかかわらず恋しい男が訪ねてきたら家に入れざるを得ないという激しい恋心の葛藤が緊迫感をもって表現されている。古代の生活の一面をうかがわせ、また不変の人間性のすばらしさを教えてくれる秀歌である。万葉歌は日本の精神文化の源泉の一つであるが、「葛飾早稲」歌もその一つであり、これを誇りとして後世に伝承するためには、その地で米作りが実際行われていたかどうかは別にして、古代の葛飾郡内ならどこにでも「葛飾早稲」碑は建てられてよいと思うのである。たとえば「手児奈伝説」で有名な千葉県市川市真間や、「寅さん」の故郷東京都葛飾区柴又などにもいつかこの碑が建てられることを私は夢見ている。

(友の会では来年1月に万葉集関連の講演会を予定しています)



旧歌碑(上)、新歌碑(下)
三郷市早稲田の稻荷神社境内

友の会からのお知らせ

『JUNO』にエッセイや旅行記・書評などの原稿を送ってください。

◎友の会の機関誌『JUNO』で広く会員の皆様の原稿を募集します。内容は自由ですが、友の会や博物館活動に関連したもので、400～800文字程度。編集委員会で検討の上、誌面に掲載します。内容・テーマにより巻頭エッセイへの掲載をお願いする場合があります。送り先は「博物館内友の会」あて郵送。またはEメールで pu8n-tki@asahi-net.or.jp まで。

テーマ「信州浅間縄文ミュージアムと 上州群馬県立自然史博物館など」

秋たけなわの行楽シーズンに、長野県御代田町の浅間縄文ミュージアムにて常設展示：浅間山麓の縄文土器および浅間火山大噴火史を見学します。（天明3年の浅間焼けの災害がよくわかる。）

これに先立ち、群馬県富岡市上黒岩の群馬県立自然史博物館にて常設展示：A室 地球の時代などを参観します。（恐竜のめずらしい動態模型がある。）

更に、帰路には長野県小諸市の小諸城址懐古園に立寄り、島崎藤村記念館と詩碑（「千曲川旅情のうた」、「椰子の実」）を回想します。

・ 日時：平成29年10月26日(木)；大宮駅西口ソニックビル西側8:00 出発

・ 参加費用：**8,000円**（当日バス内にて集金）

<コース>大宮駅西口ソニックビル西側発 8:00(厳守) —>新上尾道路—>圏央道—>関越高速道>上信越高速道>富岡IC—>10:00頃 群馬県立自然史博物館—>11:30~12:20 昼食休憩—>上信越高速道・佐久IC—>県道9号線—>13:30 浅間縄文ミュージアム—>国道18号線—>15:00 懐古園—>16:00 上信越高速道・小諸IC>関越高速道>上里PA休憩—>圏央道>大宮ソニックビル着 **18:30頃**

< 参加申込方法など >

1. 募集定員：33名：先着順 （注）三倭観光(株)の中型バスを利用
2. 往復はがき使用： ① 10月26日見学会と明記、② 住所、③ 氏名、④ 会員番号、
⑤ 電話番号：通常時および当日の携帯TEL.
3. 宛先：〒331-0063 さいたま市西区プラザ10-9 黒澤勝利
4. 問合せ・連絡先 TEL：通常時は048-623-7560 黒澤
(当日の携帯は080-7755-1203 による。)